

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】令和 1 年 7 月 25 日 (2019.7.25)

【公開番号】特開 2019-92720 (P2019-92720A)
【公開日】令和 1 年 6 月 20 日 (2019.6.20)
【年通号数】公開・登録公報 2019-023
【出願番号】特願 2017-223574 (P2017-223574)
【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 5 月 28 日 (2019.5.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
音量調整を行うための音量調整操作手段と、
輝度調整を行うための輝度調整操作手段と、
前記音量調整操作手段への操作にもとづいて音量調整を行う処理および前記輝度調整操作手段への操作にもとづいて輝度調整を行う処理を実行可能な調整手段と、
遊技者の動作を検出可能な検出手段と、を備え、
遊技者による所定動作とは異なる特定動作にもとづいて所定動作が実行されたと見做して特定演出を実行可能であり、

前記調整手段は、前記音量調整操作手段による音量を下げる操作と前記輝度調整操作手段による輝度を上げる操作とが行われた場合に、音量を下げる処理を優先して実行することを特徴とする遊技機。

【請求項 2】

遊技を行うことが可能な遊技機であって、
音量調整を行うための音量調整操作手段と、
輝度調整を行うための輝度調整操作手段と、
前記音量調整操作手段への操作にもとづいて音量調整を行う処理および前記輝度調整操作手段への操作にもとづいて輝度調整を行う処理を実行可能な調整手段と、
遊技者の動作を検出可能な検出手段と、を備え、
遊技者による所定動作とは異なる特定動作にもとづいて所定動作が実行されたと見做して特定演出を実行可能であり、

前記調整手段は、前記輝度調整操作手段による輝度を下げる操作と前記音量調整操作手段による音量を上げる操作とが行われた場合に、輝度を下げる処理を優先して実行することを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

(手段1) 本発明による遊技機は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、音量調整を行うための音量調整操作手段(例えば、十字キー130の上方向押圧操作部130aと下方向操作部130b)と、輝度調整を行うための輝度調整操作手段(例えば、十字キー130の左方向押圧操作部130cと右方向操作部130d)と、音量調整操作手段への操作にもとづいて音量調整を行う処理および輝度調整操作手段への操作にもとづいて輝度調整を行う処理を実行可能な調整手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS800Aを実行する部分)と、遊技者の動作を検出可能な検出手段と、を備え、遊技者による所定動作とは異なる特定動作にもとづいて所定動作が実行されたと見做して特定演出を実行可能であり、調整手段は、音量調整操作手段による音量を下げる操作と輝度調整操作手段による輝度を上げる操作とが行われた場合に、音量を下げる処理を優先して実行する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS4009, S4010を実行する部分。図20に示すタイミングT1の処理参照。)ことを特徴とする。そのような構成によれば、演出効果が低下することを防止することができる。

【 手続補正3 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 1 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 1 2 】

(手段2) 本発明による遊技機その他の態様は、遊技を行うことが可能な遊技機であって、音量調整を行うための音量調整操作手段(例えば、十字キー130の上方向押圧操作部130aと下方向操作部130b)と、輝度調整を行うための輝度調整操作手段(例えば、十字キー130の左方向押圧操作部130cと右方向操作部130d)と、音量調整操作手段への操作にもとづいて音量調整を行う処理および輝度調整操作手段への操作にもとづいて輝度調整を行う処理を実行可能な調整手段(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS800Aを実行する部分)と、遊技者の動作を検出可能な検出手段と、を備え、遊技者による所定動作とは異なる特定動作にもとづいて所定動作が実行されたと見做して特定演出を実行可能であり、調整手段は、輝度調整操作手段による輝度を下げる操作と音量調整操作手段による音量を上げる操作とが行われた場合に、輝度を下げる処理を優先して実行する(例えば、演出制御用マイクロコンピュータ100におけるステップS4011, S4012を実行する部分。図20に示すタイミングT2の処理参照。)ことを特徴とする。そのような構成によれば、演出効果が低下することを防止することができる。